

2019年度 第1回医療安全監査委員会 議事録

日 時：令和元年8月29日（木）9時～11時30分

場 所：国立国際医療研究センター病院 国際医療協力研修センター棟2階 幹部会議室

出席者：（外部委員）山本 知孝

東京大学医学部附属病院 環境安全管理室長

細川 大輔

細川大輔法律事務所・弁護士

出口 桂太郎

株式会社ユーラシア旅行社取締役管理部長・公認会計士

（内部委員）井上 肇

国立国際医療研究センター 企画戦略局長

柳澤 武

国立国際医療研究センター 事務局長

（オブザーバー）杉山病院長

伊藤総務課長

田崎患者相談専門職

（事務局）原副院長・医療安全管理責任者

高本医療安全管理部門長・室長

吉田医療安全管理者

大曲国際感染症センター長

杵木感染防止対策副師長（専従）

報告・審議事項

医療安全管理規程の改訂

インシデント・アクシデントレポート、有害事象報告、事例検討会

日本医療機能評価機構への報告、医療事故調査・支援センター報告

医療安全に係る研修実施状況（2018年度後期の全職員対象研修など）

春の医療安全週間について（2019年度）

医療安全パトロール（2018年度後期）結果

医療安全に係る取り組み：リスクマネージャー会議、転倒・転落、患者誤認、インシデント対応

高難度新規医療技術評価部報告

未承認新規医薬品等評価委員会報告

院内感染対策

その他：質のモニタリングに関して、放射線や病理のレポートの未読についての対策

全体講評

医療安全について、医療安全管理体制、研修の状況、インシデント・アクシデントレポートの報告状況などは良好であると考えます。医師の報告数も比較的多い状況であり、引き続き維持していただきたい。

インシデント事例について、分析をして対策を立てその効果を検証するプロセスを実践していることはとても評価できる。ゼロにすることは難しいが、繰り返し起きている事例もあるので、そういったものは引き続き注意をして対応していただきたい。

レポートの資料についてだが、可能なら簡潔に内容も記載していただきたい。こういった事象があるのか、例えば「薬剤の取り違え」など内容の内訳も知りたい。その中で病院として取り組んでいる重要な指標があれば示していただきたい。

高難度新規医療技術の導入プロセスについては、適切に行なわれていると思う。審査のプロセスは勿論、検証のプロセスにも引き続き取り組んでいただきたい。当該医療技術・医薬品等についての包括的な承認となっていることから、患者への説明に十分配慮する必要がある。申請漏れがないか、そのためにどのようなことが出来るか検討していただきたい。

医療事故調査委員会について、原因究明には至らなかったが、外部委員も複数招いて充実した議論を行っており、評価できる。

感染について、多剤耐性菌が検出された際の対応、抗菌薬の使用状況モニタリング等、十分な対応をしている。感染リスクが発生した時の対応も手順に沿ってなされており、問題ない。

【指摘事項への対応】

- ・インシデント・アクシデントの報告が適切になされるよう引き続き周知や整備を行っていく。
- ・繰り返し起こるインシデントに関しては分析・対策立案・効果検証を行い対応する。
- ・レポートに関する報告は次回から内容の把握が行いやすいような提示方法を工夫する。
- ・高難度新規医療技術に関して個別の評価が適切に行われるよう注意する。
- ・医療事故調査委員会が必要な事例を引き続き見極めていく。
- ・感染対策に関して現行の対応、モニタリングを継続していく。